酸素で記憶力アップ

松下電器、代ゼミ

名古屋工大が研究

松下電器産業は11日、高濃度の酸素を吸って勉強すると、記憶力がアップするとの実験結果を大手予備校の代々木ゼミナール、名古屋工業大学との共同研究で確認した、と発表した。高濃度酸素を吸ったネズミの神経細胞や記憶に関係する脳内遺伝子が活性化することも分かった。同大学の藤廣規明教授は「認知症の抑制などに活用できる可能性がある」と説明している。

代ゼミの生徒77人を2グループに分けて実施。松下製の酸素補給機を使用した。

第1のグループは、初日に100問の英単語の意味を問う試験を行い、その後、約30％の高濃度酸素を吸引しながら、出題された英単語を約20分間学習。2日目に同様の単語の試験を行ったところ、平均正解数が初日の24・3から2日目に57・4に増加した。同様のやり方で試験した高濃度酸素を吸わない第2のグループは、初日が22・9、2日目は51・6で、正解の増加数は第1のグループが約15％多かったという。

また、意味のない単語の記憶試験を中高年に実施したところ、酸素を吸引した人の記憶量が、吸引しなかった人に比べ約17％上回った。

ネズミを使った迷路試験でも同様の結果が得られ、記憶をつかさどる脳の部位を分析。神経細胞の情報伝達を促進する遺伝子や記憶たんぱく質を作る遺伝子が計26個活性化し、関連たんぱく質が合成されていることを確認した。

認知症抑制に期待

【田畑悦郎】